

記者発表資料

永田クラブ  
経済研究会      へ配布  
国土交通記者会   へ貼り出し



平成20年8月29日  
内閣府（防災担当）

## 平成20年防災功労者防災担当大臣表彰式について

標記式典を下記のとおり執り行うのでお知らせします。

### 記

- 日 時      平成20年9月5日（金）  
                  13時30分～
- 場 所      内閣府本府講堂
- 出席者     防災担当大臣   ほか

\* 式典内容はカメラ撮り可

**【本件問い合わせ先】**

内閣府政策統括官（防災担当）付

参事官（総括担当）付   井上、三瓶<sup>さんぺい</sup>、中島

電話：03-3501-5408（直）   FAX：03-3503-5690

## 平成20年防災功労者防災担当大臣表彰式

- 1 日 時 平成20年9月5日(金)  
13:30~14:00
- 2 場 所 内閣府地下講堂
- 3 表彰式次第
- (開 式) 13:30
- (1) 防災担当大臣あいさつ
- (2) 防災担当大臣表彰状授与
- (3) 受賞者代表謝辞
- (閉 式) 13:50
- 4 記念写真撮影 13:55
- (終 了) 14:00

## 平成20年防災功労者防災担当大臣表彰受賞者名簿

### ○ 個人

#### 〔災害時の防災活動〕

島倉 與志貴 (富山県)

黒田 裕子 (兵庫県)

#### 〔防災思想の普及〕

小山 重之 (宮城県)

小山 富美雄 (熊本県)

#### 〔防災体制の整備〕

藤井 敏嗣 (東京都)

坂本 功 (兵庫県)

西田 良平 (鳥取県)

玉田 文吾 (福岡県)

高橋 和雄 (長崎県)

### ○ 団体

#### 〔災害時の防災活動〕

社団法人新潟県看護協会 (新潟県)

にいがたGIS協議会 (新潟県)

#### 〔防災思想の普及〕

トヨタボランティアセンター (愛知県)

#### 〔防災体制の整備〕

女性防災クラブ平塚パワーズ (神奈川県)

高齢者総合ケアセンターこぶし園 (新潟県)

七条学区自主防災会 (京都府)

以上 9個人 6団体

## 功 績 概 要

個人 [災害時の防災活動]

推 薦 者	富 山 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	しま くら よしき 島 倉 與志貴 (62 歳)
住 所	富山県下新川郡入善町
職 業	社団法人入善町シルバー人材センター非常勤
功 績 の 概 要	<p>同氏は、平成20年2月24日に発生した入善海岸高波災害に際し、芦崎3区区長及び芦崎地区にある5地区の区長会長として、各地区区長と連携し住民の避難に必要な一時避難場所の確保や住民への避難の周知、負傷者の救出活動や迅速な全世帯の安否確認に奔走した。</p> <p>また、道路、井戸、排水路を始め地区内の状況把握に努め、的確な対策に必要な情報を災害対策本部へ積極的に提供するとともに地区住民の意見を取りまとめ、早期復旧対策に大きな役割を果たした。さらに、仮設トイレ、給水車の設置場所や漂流物やゴミの処理に関する住民への情報の周知、避難所での住民の激励など不眠不休で活動を行い、被災世帯のボランティアの受入れに当たっては、地元住民で案内役を組織し、スムーズなボランティア活動に貢献した。また、被災世帯への支援物資の配布や要望事項の取りまとめなど、常に地域の状況に気を配り、地域と町のパイプ役として尽力した。</p> <p>なお、現在も本格復旧に向け芦崎地区災害復興促進協議会を立ち上げ、地域の代表として意見を取りまとめるために会議を重ねており、地域の早期復興に向け尽力するなど、災害時の防災活動に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人 [災害時の防災活動]

推 薦 者	内 閣 府
氏 名 ( 年 齢 )	くろ だ ひろ こ 黒 田 裕 子 (67歳)
住 所	兵庫県神戸市
職 業	特定非営利活動法人阪神高齢者障害者支援ネットワーク理事長
功 績 の 概 要	<p>同氏は、阪神・淡路大震災において宝塚市立病院で看護師在職中に被災した際に、仮設住宅の敷地にテントを張って泊まり込み、全員の家庭や健康状態を把握し、把握するまで何度も訪問し手紙を投函し、孤独死の防止に尽力するなど、高齢者・障害者などの支援にボランティアとして活動した。その後も「阪神高齢者・障害者ネットワーク」を設立し、仮設住宅での24時間体制の被災者支援活動の実施、災害関連死や孤独死防止のために医療相談や独居老人の見守り、集会所の設置を行った。仮設住宅から公営住宅への転居後も、自立した生活が困難な高齢者や障害者を24時間体制で継続的な支援活動を行った。</p> <p>また、各地で災害が起こるたびに被災地に駆けつけ、医療相談や現地のボランティア活動の支援などを行い、聴覚障害のある老夫婦に手話で応対をするなど、被災者の心のケアに尽力した。</p> <p>さらに、支援活動を通じての災害看護、ボランティアのあり方等について各地の病院、学校(大学・高校・中学校・小学校)、企業、NPO団体等からの要請を受けて講演を行うなど、災害ボランティア活動に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	宮 城 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	お やま かず ゆき 小 山 重 之 (79歳)
住 所	宮城県気仙沼市
職 業	幼稚園園長
功 績 の 概 要	<p>同氏は、自身の津波被害の経験から、27年間にわたり防災教育の先駆けとして、幼児、保護者及び地域住民に対する防災啓発活動に取り組んでおり、防災教育に取り組む上での学校関係者や関係機関にも多大に影響している。</p> <p>また、幼稚園の先生方による津波の紙芝居及びビデオによる指導、稲村の火をモチーフにした模型の作成及び展示、通園途中に実施するバスから高台への津波避難訓練の実施、ポスターの自主作成及び貼付けなど、幼児にも理解されやすいように趣向を凝らすなどした。</p> <p>さらに、幼年期の園児を対象とし、災害を理解させながら、自身を守る術をも含む防災教育を長年にわたり、実行、継続していることは、現在、気仙沼市において取り組んでいる小中学生への防災教育方針にも合致しており、地域の防災意識の啓発に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人 [防災思想の普及]

推 薦 者	熊 本 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	お やま と み お 小 山 富美雄 (83歳)
住 所	熊本県熊本市
職 業	無職
功 績 の 概 要	<p>同氏は、平成9年に発足した楠地区自主防災クラブ連合会(2校区7クラブ)に結成当時から役員として活動し、平成12年に連合会長となった際に、地域住民の防災意識の向上のため、7クラブ(4,371世帯、1万1,266名)による、熊本市の自主防災クラブとしては最大規模である合同訓練を実施し、以降、毎年合同訓練を実施している。同氏のリーダーシップにより、毎回より実践的な訓練を実施し、校区外の小・中学校及び各種団体等から訓練の参加依頼があるとともに参加者も年々増加するなど、地域住民の防災意識の高揚に努めている。</p> <p>また、防災関係機関が行う研修会や総合防災訓練の積極的な参加や、定期自主防災会議を開催し、住民一人ひとりの防災行動力の向上に尽力し、高齢化する自主防災クラブにあって若手の育成指導を図っており、地域防災力の向上に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	内 閣 府
氏 名 ( 年 齢 )	ふじ い とし つぐ 藤 井 敏 嗣 (61 歳)
住 所	東京都渋谷区
職 業	東京大学地震研究所教授
功 績 の 概 要	<p>同氏は、マグマ学、実験岩石学の第一人者として、マグマ学に関する研究等において優れた業績を残しており、火山対策等において防災行政へ有用な提言を行うなど、その活動は非常に幅広く、研究活動においては、マグマの成因や火山の形成、富士火山のマグマ組成の変化とその要因に関する研究など多岐にわたり、その成果は学術的にも極めてレベルの高いものであり、防災行政においても多大な影響をもたらしている。</p> <p>また、火山の分野では、火山噴火予知連絡会会長、日本火山学会会長等を務めるなど、学会活動においても同氏の功績は極めて大きい。</p> <p>さらに、防災行政に対しても、「火山情報等に対応した火山防災対策検討会」座長代理、「富士山ハザードマップ検討委員会」委員、2000年三宅島火山噴火を受けて発足した「三宅島火山活動検討委員会」では座長を務め、火山対策に係る数多くの提言を行うなど、学術面及び国、地方公共団体等の防災対策の推進に多大に貢献した。</p>



## 功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	兵 庫 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	さか もと いさお 坂 本 功 (65歳)
住 所	千葉県柏市
職 業	慶應義塾大学教授
功 績 の 概 要	<p>同氏は、木造住宅や建築非構造部材耐震性の専門家として、「兵庫県家屋被害認定士制度検討委員会」委員長を務め、兵庫県家屋被害認定士制度を創設したほか、「Eーディフェンスを活用した減災対策推進委員会」アドバイザーとして、建築物等に係る減災対策の研究・推進に寄与するなど、県の防災対策の推進に大きく貢献した。</p> <p>また、中央防災会議では「東海地震に関する専門調査会」、「今後の地震対策のあり方に関する専門調査会」及び「東海地震対策専門調査会」の専門委員として有用な提言を行うとともに、その他防災関係機関の役員等として全国で活動するなど、防災対策の推進に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	鳥 取 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	にし だ りょうへい 西 田 良 平 (66 歳)
住 所	鳥取県鳥取市
職 業	放送大学客員教授、放送大学鳥取学習センター所長
功 績 の 概 要	<p>同氏は、鳥取県における地震に関する第一人者として、鳥取県とその周辺の地震活動の特徴などの調査研究に携わり、平成12年の鳥取県西部地震において、被害拡大防止のための具体的な提言を行うとともに、地震解析・被害解析等を行い、鳥取県西部地震に関する各種の調査研究報告書を取りまとめるなど優れた研究成果を残した。また、鳥取県防災顧問として、防災行政に対し有用な提言を行い、「鳥取県地震防災調査研究報告書」を取りまとめるなど、県の防災対策の向上に貢献した。</p> <p>また、県や市町村が開催する防災講習会の講師を務め、住民等に対する防災教育や意識啓発を行うなど、地域防災力の向上に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	福 岡 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	た ま だ ぶ ん ご 玉 田 文 吾 (73歳)
住 所	山口県山陽小野田市
職 業	西日本工業大学名誉教授、社団法人日本地すべり学会九州支部顧問
功 績 の 概 要	<p>同氏は、北九州市防災アドバイザーとして、市内の斜面災害危険箇所の現地調査等に随行及び助言・指導し、また、降雨量から斜面災害危険を予測する「北九州市土砂災害危険システム」の構築時に専門家として寄与した。</p> <p>また、市と共同で市内の斜面災害危険箇所（約120箇所）を調査した結果、同市の地形・地質の特性が明らかになったため、土砂災害の誘因となる有効先行降雨量及びその算出方法について共同研究を実施し、これまで延べ34日間137時間（災害派遣分を除く）にわたり、市職員への斜面災害メカニズムや前兆現象に対する見識を伝承し、この共同研究の成果により、早期避難体制の整備、人命救助に寄与するなど、防災対策の推進に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

個人〔防災体制の整備〕

推 薦 者	長 崎 県 知 事
氏 名 ( 年 齢 )	たか はし かず お 高 橋 和 雄 (63 歳)
住 所	長崎県長崎市
職 業	長崎大学教授
功 績 の 概 要	<p>同氏は、昭和57年長崎豪雨災害以降、多年にわたり、豪雨、台風、地震、火山噴火等14の災害について、情報伝達、避難行動、都市災害、ライフライン、被災者対策、復興対策の発災から復興に至るまで、ヒアリング、アンケート調査などにより詳しく調査して報告書、論文などにまとめることで、地域防災計画、復興計画、被災者の生活再建等に反映させるとともに、国レベルの防災対策や住民の啓発、学問の進歩に大きく貢献した。</p> <p>また、国、県、市町、財団等の委員を務め、委員会活動を通じて、調査結果を防災対策の立案、地域防災計画の修正、防災アセスメント、復興対策などに反映し、防災体系の整備に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	新 潟 県 知 事
名 称	社団法人新潟県看護協会
所 在 地	新潟県新潟市
代 表 者	お さ べ た み 会 長 長 部 タ ミ
功 績 の 概 要	<p>同協会は、日頃から災害看護に関する研修を実施するなど、災害発生時に備えた体制づくりを実施しており、災害時において、日本看護協会災害時支援ネットワークシステムとの連携を図り、被災地へ災害支援ナースを派遣し、一般避難所や福祉避難所、福祉施設等で、健康管理、健康相談、生活支援等の看護業務を行い、被災地支援に貢献した。</p> <p>また、平成19年新潟県中越沖地震においては、発災後2日目に災害看護対策支援室を立ち上げ、社団法人日本看護協会、保健所等と連携しながら看護師等の派遣調整を行い、約1か月にわたり延べ195名の災害支援ナースを被災地へ派遣した。被災地では、柏崎市及び刈羽村を中心に、一般避難所を始め福祉避難所、福祉施設等において、ボランティアで健康管理、健康相談、看護業務等の支援活動を行った。</p> <p>さらに、被災者の健康相談や巡回診療介助等による健康管理、定期的な巡回相談や声かけ等による精神面のケアを行うなど、災害時における看護体制と健康被害の拡大防止に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体 [災害時の防災活動]

推 薦 者	新 潟 県 知 事
名 称	にいがたGIS協議会
所 在 地	新潟県新潟市
代 表 者	<small>さか い ひろ こ</small> 会長 坂 井 宏 子
功 績 の 概 要	<p>同協議会は、平成19年新潟県中越沖地震に際し、GIS（地理情報システム）に関わる研究機関や関係団体とともに、県災害対策本部の「地図作成班」として、GISを活用した電子地図の作成活動を行い、GISに係る資材やノウハウを無償提供するとともに、延べ約200名のボランティアが参加し、23日間にわたり土日夜間となく活動し、地震の被害や復旧状況等に関する約200種類の電子地図を作成し、災害対策本部に提供した。</p> <p>また、電子地図の作成により、被災地のどこで何が起きているか、目に見える形で分かるようになり、災害対策本部会議での状況説明にも活用され、本部内での状況認識の統一や共有に役立ち、現地調査で利用されたほか、一部は県のホームページで公開され、県民への情報提供にも役立った。</p> <p>この活動を通じ、災害対策本部の災害対応が迅速化、円滑化され、被害の拡大防止や被災地の早期復旧が促進されるとともに、被害や復旧の状況が分かりやすく発信されるようになるなど、被災住民の安全、安心の向上に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体 [防災思想の普及]

推 薦 者	全国社会福祉協議会
名 称	トヨタボランティアセンター
所 在 地	愛知県豊田市
代 表 者	<small>すず き みつ ひろ</small> 担当課長 鈴木 盈 宏
功 績 の 概 要	<p>同センターは、企業内のみならず、地域に対しての防災の取組や働きかけにより、地域に根ざした活動を行っている。防災ボランティア「家具転倒防止」活動では、豊田市の民生委員・児童委員協議会と連携の上、災害時要援護者・支援者宅を対象に定期的にボランティアが訪問し、家具転倒防止措置を講ずることを通じて、地域の高齢者との間に交流が根付いている。今後、民生委員・児童委員協議会との連携を本格化させ、活動者の拡大を図り、活動対象を年120件に増加することで、豊田市内の独居高齢者宅1,800件の訪問を2023年までに完了させる目標を掲げて活動している。</p> <p>また、「トヨタグループ災害Vネット」を発足し、地域や職員に対する防災講座や研修会の開催を始め、地域での防災・減災活動、災害時のネットワークづくりや防災ボランティアの育成に力を入れている。企業の社会貢献という枠にとらわれず、豊田市をはじめ県内各地域で、社員が自主的に地域に入って地道に防災活動を行い、東海・東南海地震を想定しながら、防災・減災活動の普及・推進に積極的に取り組むなど、企業防災の啓発の推進及び地域防災力の向上に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	神 奈 川 県 知 事
名 称	女性防災クラブ平塚パワーズ
所 在 地	神奈川県平塚市
代 表 者	こ ばやし よし え 会長 小 林 美 枝
功 績 の 概 要	<p>同団体は、防災知識、技術を積極的に習得し、災害発生時には、隣近所や地域をまとめるリーダーの役割を果たせるよう、多年にわたり研修を重ねている。</p> <p>さらに、各地域の防災訓練へ参加するとともに、平塚市内で行われる様々なイベントにおいて、地域に根付いた防災啓発活動を活発に行っている。</p> <p>「大切な家族、地域は自分達でしっかり守ろう。」を合言葉とし、女性ならではの視点で家庭防災を実践しつつ、市民へ防災活動を広めることで、地域全体の防災意識の向上に多大に貢献した。</p>



## 功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	全国社会福祉協議会
名 称	高齢者総合ケアセンターこぶし園
所 在 地	新潟県長岡市
代 表 者	こ や ま つ よ し 総合施設長 小 山 剛
功 績 の 概 要	<p>同団体は、平成16年新潟県中越地震において、要援護者の緊急避難受入れ、避難所・仮設住宅における要援護者・支援者支援を行い、災害弱者支援の役割を担った。仮設住宅への長期の入居を余儀なくされることによる生活災害・介護災害の両面から支えるため、仮設内のサポートセンターを運営し、2年間にわたり様々な生活支援を行った。要介護者のみでなく、一般利用者が多く出入りする空間となり、仮設住宅とサポートセンターの利用で地域内の移動距離が近くなったことから、隣近所が助け合うコミュニティを復活させ、地域密着型サービスを実現させた。</p> <p>また、広域のネットワークを組んで大災害時に発動できるシステムを現実化させるべく、「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード」を設立した。これにより、福祉的サポートを要するより多くの被災者に手を差し伸べられるようになり、長岡市仮設住宅に実現したサポートセンターのような被災者支援拠点を「移動方式」で対応が可能となるよう検討を重ねるなど、災害時に備えた防災活動の向上に多大に貢献した。</p>

## 功 績 概 要

団体〔防災体制の整備〕

推 薦 者	京 都 府 知 事
名 称	七条学区自主防災会
所 在 地	京都府京都市
代 表 者	にしむらためひこ 会長 西村 為彦
功 績 の 概 要	<p>同団体は、町内版の防災計画である「身近な地域の市民防災行動計画」を全37自主防災部（町内）で策定し、実態を反映した町内マップの作成や、行動計画に基づいた消火実験会や避難訓練を積極的に実施し、訓練後には反省会や検証結果を踏まえた同計画の見直しを行い、現状の認識を共通のものとするなど災害発生時の対応に備えている。また、地域消防団や消防署と連携した総合防災訓練を実施し、地域住民の非常時の災害対応力の向上を図り、大規模災害の発生時における被害の軽減を目的として、平成11年に地域内の救急告示病院との間で応援協定を締結し、非常時の協力体制を確立するとともに、学区総合防災訓練で毎年合同訓練を実施するなどの応援協力体制を構築した。</p> <p>また、地域のリーダー（自主防災部長）を対象としたリーダー研修会を実施し、研修内容として災害発生時の救出救護班、消火班等の班別役割等に関する内容を取り入れ、防災リーダーの育成を図るなど、地域防災力の向上に多大に貢献した。</p>